



はじめに

道東の拠点である釧路空港は、釧路市の北西約22kmに位置し、小高い山岳部の原野を切り開いて作られた高台にあり、周辺は牛馬の放牧場として利用されるなだらかな丘陵地帯に囲まれています。

空港の所在する釧路市は、「日本のロンドン」とも呼ばれるほど霧が多く、街のシンボルである幣舞橋に立ちこめる霧は、見る者を幻想的な世界へと誘ってくれます。

またもう一つの観光名所でもある釧路湿原は、湿地の貴重な生物を保全するためのラムサール条約の指定湿地となっており、その優れた自然環境は、シマフクロウ・キタサンショウウオ・イトウなどの希少な生き物の生息地になっていると同時に、タンチョウ鶴・エゾシカなどを身近に見ることができる貴重なスポットとなっております。

次に周辺の観光地に目を移すと、マリモで有名な阿寒湖、またカルデラ湖としては日本最大の面積を誇る屈斜路湖や、神秘の湖として名高い霧の摩周湖など全国的にも有名な湖と、その近くには豊富な湯量を誇る温泉地も数多くあります。

食についても、釧路ブランドとして全国的に有名なサンマをはじめ、クジラ・シシャモ・サケなど新鮮な海産物が豊富で、大切な観光資源の一つとなっており、豊かな自然の恵みと食を求め、毎年多くの人がこの地を訪れます。

このような恵まれた周辺環境を最大限に生かし、空港の利用促進に結びつけることが今後の課題であると考えられます。

釧路空港の利用促進

釧路空港利用促進連絡会は、空港関係者が相互に連携し、航空需要の喚起及び地域振興に寄与することを目的として、平成16年4月1日に発足いたしました。

これまでの当連絡会においての主な取り組みとしては、

- ・空港のPR及び利用者利便の向上を目的とし、空港周辺の観光地を紹介した「観光ガイドブック」の作成。
- ・近年増加している国際チャーター便（主に台湾、韓国）に対する旅客サービスの一環として、旅客ターミナルビル内に中国語、韓国語等の案内表示板を設置。
- ・利用者に対して、「冷涼な夏」避暑地としての釧路をPRするため、旅客ターミナルビル前に丹頂鶴をデザインした温度計を設置。

などで、いずれも利用者の方々からは好評であり、空港のイメージアップにも役立っております。

また、更なる地域振興策の一環として、当連絡会において平成17年11月から「空港を核とした観光交流促進プログラム」の策定に取り組みました。

本プログラムは、地域振興に貢献するための当空港の果たす役割について、ハード、ソフト両面にわたり必要な施策を総合的かつ計画的に進めるものであるため、策定にあたっては、空港関係者のみならず地元経済団体等の関係者の皆様にもご協力いただき、様々な視点からのご意見等いただきながら、本年5月素案が完成いたしました。

内容としては、策定の目的、地域の観光交流戦略、地域の観光促進に釧路空港が果たす役割、釧路空港に求められる取り組み（具体的な実施メニュー）といった構成になっており、現在実施に向けて本省航空局に対し検討をお願いしているところです。

最近のニュースとしては、関係団体等から、空港の利用促進策の一環として、釧路空港にも親しみやすい愛称をつけてはどうかとの意見があり、関係機関等において前向きに検討した結果、全国的にも知名度があり、釧路の代表的な鳥である天然記念物のタンチョウ鶴を愛称とし、「たんちょう釧路空港」と呼ぶことに決定いたしました。

今後は、関係団体等と連携を取りながら、愛称の普及を図ってまいります。

施設面では、本年8月1日から旅客ターミナルビル2階に旅の疲れを癒してくれるマッサージサロンをオープンし、より一層のサービスの向上・充実を図りました。

また、各施設の整備、段差の解消等バリアフリー対策にも積極的に取り組んでおり、高齢者・身体障害者に対する介助方法等について学ぶ「交通バリアフリー教室」の会場としても、旅客ターミナルビルを開放しております。

このように、今後も関係者等と協力し、「みんなが使いやすい空港」を目指し努力してまいります。

【ターミナルビル2階のマッサージサロンです】

